扁平

つげ幻象

砂洲ひとつとり残さるる寒の明
橋の上につぎの風待つ二月かな
玉巻くキャベツ軽トラがふはと過ぐ
まなうらへとどくまぶしさ水の春
雪解川電車はひかりこぼしつつ
朝桜うすく息吐く炊飯器
石垣の動きそめたり花吹雪
買物の籠の上座のはうれん草
天地の扁平にして朧なり
防風を摘む足音は砂に消え